想定されるワクチン接種の運用と接種順位（検討）

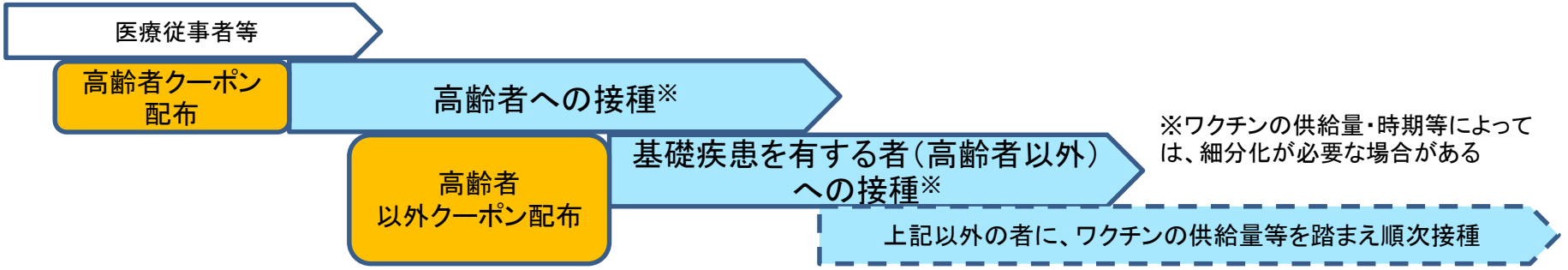
○　医学的な知見として、新型コロナウイルス感染症の重症化・死亡のリスク因子として年齢と基礎疾患が報告されているが、特に年齢が大きく影響している。
（高齢者は一般成人・若年者と比較して重症化・死亡リスクが十数倍～数十倍に上昇する一方で、基礎疾患による重症化・死亡リスクの上昇は概ね数倍程度）。

※　また、接種の実務面からみると、年齢に着目して高齢者から接種券を配布することは可能だが、市町村は基礎疾患の情報を把握していないことから、基礎疾患のある者に接種するためには、全年齢の対象者に接種券を送付する必要が生じる。高齢者から先に接種券を送付し接種を進める方が、実務的にも実施しやすいと考えられる。

検討事項

- 高齢者、基礎疾患の接種順位についてどう考えるか。リスクの差の大きさ等を踏まえ、高齢者と基礎疾患を有する者の相対的な接種順位は、まず一定の年齢以上の高齢者が接種を受け、一定の年齢未満で基礎疾患を有する者がそれに続くことが考えられるのではないか。
- 高齢者、基礎疾患の範囲についてどう考えるか。（資料2で今後の進め方を検討）
- ワクチンの供給量・時期によって、高齢者や、一般成人・若年者の接種順位を更に細分化する必要がある場合には、何に着目して細分化すること考えられるか。高齢者、一般成人・若年者のそれぞれのうちでも、年齢によるリスクの差が大きいことから、より高い年齢の者から先に接種することについてどう考えるか。

重症化リスクの大きさと、接種券配布の実務を踏まえ、考えられる接種順位の大まかなイメージ



注：このほか、高齢者及び基礎疾患を有する者や障害を有する者が集団で居住する施設等で従事する者の接種順位については業務やワクチンの特性等を踏まえ、妊婦の接種順位については、国内外の科学的知見等を踏まえ、検討することとされている。